

令和5年8月3日

報 告 書

大田原市議会広報広聴委員会委員長 滝田 一郎 様

大田原市議会 第2班班長 滝田 一郎

大田原市議会報告会実施要綱第9条第1項の規定により、下記のとおり報告いたします。

記

1. 日 時 令和5年7月26日(水) 午前10時30分～11時30分
2. 会 場 大田原市役所7階 議会フロア
3. 担当議員と役割

【担当議員】	【支援議員】
滝田 一郎 (班長)	中川 雅之 (案内・書記)
大塚 正義 (司会進行)	深澤 正夫 (受付・書記)
前田 則隆 (意見交換対応)	秋山 幸子 (案内・書記)
大豆生田 春美 (//)	前野 良三 (受付・書記)
引地 達雄 (//)	菊池 久光 (//)
4. 参加者 17名 (市内17名、市外0名)

5. 意見交換会の内容

(1) 1班（大田原地区）

○東部地区生活支援コーディネーター

- ・見守り活動を行っているが、ご近所付き合いやゴミ出し、おすそ分けなど昔ながらの気遣いもあるが一方で希薄化も進行している。
- ・市街地と農村部では生活スタイルが異なるが共通している課題は高齢者の外出支援。

○西部地区生活支援コーディネーター

- ・西部地区には市内人口の20%に当たる14,000人が住んでいる。
- ・新興住宅には若い人が多く高齢化率は21%である。
- ・学区再編のため自治会内で学校が異なる。

○紫塚地区生活支援コーディネーター

- ・2025年問題について地域でどう実行できるか。
- ・福祉活動には若い人が必要でありひとづくりが大切。
- ・地域の中でイベントの立ち上げを検討している。

○金田地区生活支援コーディネーター

- ・地域ごとの行事はいろいろあるが地区全体の活動には至っていない。
- ・バス停までの距離がある。デマンド交通は使い勝手が良くない。
- ・（介護等の）人材不足が課題。

○親園地区生活支援コーディネーター

- ・高齢化率が高くなっている。
- ・市街地に行くには車があれば容易であるが高齢者は出かけにくい。
- ・見守り事業は継続することが課題。

○野崎地区生活支援コーディネーター

- ・高齢化に伴い空き家が増えている。
- ・空き家については、持ち主の利用可否を行政が中心となり進めてほしい。
- ・児童相談員などの資格を持った人を常駐させ、身近な相談ができる場所にしてほしい。
- ・野崎研修センターをいつでもだれでも利用できる地域の交流拠点にしてほしい。

○佐久山地区生活支援コーディネーター

- ・高齢化率42%、市内2番目に高く足の確保が課題のため外出支援を行い5年目になる。
- ・小中学校の閉校とふれあいの丘が稼働していないことが地域として心配。
- ・地域の事業継続には、後継者の育成が課題のため地域全体で進めている。

(2) 2班(湯津上・黒羽地区)

○湯津上地区生活支援コーディネーター

- ・侍塚古墳文化財保護 草刈り。
- ・小中学校の児童生徒の見守り。
- ・高齢者の食事サービス事業。
- ・人口減による、後継者人数が減っている。
- ・農地水による水路清掃。
- ・高崎市に研修に行った。

○黒羽地区生活支援コーディネーター

- ・地域が頑張っている。高齢者の見守り。
- ・民生委員が活発に活動している。
- ・ほほえみセンター(運営計画すごい)。
- ・旧学校の活用(ポラリス)、使い方、利用方法 → 簡素化にして欲しい。
- ・空き家の活用法が必要です。
- ・空き地の草がひどく、対策が欲しい。
- ・お店が無くなっている。
- ・田畑が荒地状態になっている。
- ・男性の居場所づくりが必要です。
- ・高齢者の茶会、地区ごとに月1回継続したい。足がなく来られない。
- ・デマンド登録無しでは、おたっしゃクラブの人は乗って良いが、その時だけは駄目と言われた。何とかならないか。
- ・防災についても、しっかりと取組みたい。

○川西地区生活支援コーディネーター

- ・見守り隊発足10年目となる。発足当時より自分達でしっかり行うということが、班長に引継がれてくるようになった。世代交代した場合、しっかりと引き継がれるかわからない。
- ・2025年問題から2040年問題にシフトしている。
- ・旧川西中学校職員室、簡単に借りられない。簡単に借りられる公民館があると助かる。
- ・今後、空き家利用の小さな居場所。男性の集いの場所必要。

○両郷地区生活支援コーディネーター

- ・「郷郷」カフェ 両郷コミュニティセンター 13:30~で好評です。
- ・トコトコマルシェ「もぐら」来てくれて、販売がある。
- ・デマンド交通体験買い物ツアー実施した。与一の里へ23名参加で好評でした。
- ・デマンド交通で大田原市内に行けると良い。

○須賀川地区生活支援コーディネーター

- ・20年後、皆居なくなってしまうのでどうなるのだろうと心配。
- ・車運転免許証の返納者で、デマンド体験した。新たに25名登録した。
- ・月2回、地区住民と須賀川小児童が参加する、情報交換会を実施している。
- ・デマンド交通、現在の停留所から家までの距離が長いので、停留所を増設して欲しい。

◇議員コメント

- ・大豆生田議員

今後どのように高齢者を見守っていくのだろうと心配に思う。若い力も参加させ、見守っていく人がいないので改善策を考えないといけない。

- ・大塚議員

コロナ禍で、生活支援コーディネーターがお互い話をする機会が無かったので、悩みを話せるような機会が必要であると思う。

高齢者対策も必要であるが、若い人達も住みやすいよう、総合的対策が必要。